

1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

<p>国語A (領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった。</p> <p>②書くこと 概ね良好な結果であった。</p> <p>③読むこと 概ね良好な結果であった。</p> <p>④言語事項 概ね良好な結果であった。</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 概ね良好な結果であった。</p> <p>②短答式 概ね良好な結果であった。</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果であった。</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もともと正答率の高かった設問 「漢字を読む設問。⇒『料理をのせたさらを運ぶ』」 ・もともと正答率の低かった設問 「漢字を書く設問。⇒『勢いよく走り出す』」 ・もともと無解答率の高かった設問 「『～たり、…たり』という表現に直して書く設問。」 ・もともと無解答率の低かった設問 「漢字を読む設問。⇒『道路の標識を見る。』」 「漢字を読む設問。⇒『料理をのせたさらを運ぶ』」 「故事成語の使い方として適切なものを選択する設問。 『五十歩百歩』『百聞は一見にしかず』」 「情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する設問。」 「新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択する設問。」 	<p>国語B (領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと 良好な結果であった。</p> <p>②書くこと 概ね良好な結果であった。</p> <p>③読むこと やや課題の残る結果であった。</p> <p>④言語事項 概ね良好な結果であった。</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 概ね良好な結果であった。</p> <p>②短答式 やや課題の残る結果であった。</p> <p>③記述式 概ね良好な結果であった。</p> <p>(無解答率) やや課題の残る結果であった。</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もともと正答率の高かった設問 「質問の意図を捉えて、適切なものを選択する設問。」 ・もともと正答率の低かった設問 「分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書く設問。」 ・もともと無解答率の高かった設問 「二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く設問。」 ・もともと無解答率の低かった設問など 「立場を明確にして、質問や意見を述べる設問。」
---	--

<p><分析></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「故事成語の意味と使い方を理解する問題」の正答率は、全国平均を大きく上回り、定着の高さが見られる。 ・「漢字を読む問題(特に『勢いよく』を書く問題)の正答率では、全国平均を大きく下回っており、また無回答率も高い。言語についての知識・理解・技能の弱さが伺える。 ・「新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択する問題」の正答率では、全国平均を下回っている。 ・「物語の登場人物の相互関係を捉える問題」「複数の事柄を並列の関係で書く問題」「仮定の表現として、適切なものを捉える問題」では、平均正答率こそ全国平均を上回ってはいるが、無回答率が全国平均を上回ってしまっているため、低位層の児童の理解に課題があることが分かる。 ・国語Bについては、全ての問題の無回答率が全国平均よりも高く、問題と向き合うところで諦めてしまっている児童が多い。 ・質問の意図を捉えたり、立場を明確にして質問や意見を述べたりする能力が高い。 ・「話すこと・聞くこと」の問題の正答率が、全国平均よりも高く、日頃の授業の成果が出ている。 ・目的に応じて、話し合いの観点を整理する問題」「付箋に書かれた内容に関係付けながら、最初にもった疑問を捉える問題」「割ったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書く問題」「課題を解決するために目次や索引を活用して、本を効果的に読む問題」「二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える問題」「詩の解釈における着眼点の違いを捉える問題」「二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く問題」で、正答率が全国平均を下回った。特に「二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く問題」の正答率が、全国平均を大きく下回っており、無回答率も非常に高い。
--

○●算数・数学●○

算数・数学A

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった。

②量と測定

概ね良好な結果であった。

③図形

良好な結果であった。

④数量関係

概ね良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった。

②短答式

概ね良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

・もともと正答率の高かった設問

「繰り上がりのある加法の計算をすることができるか問う設問。⇒ $46+57$ 」

・もともと正答率の低かった設問

「コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ設問。」

・もともと無解答率の高かった設問

「 1cm^3 の立方体を基に、示された直方体の体積を求める設問。」

・もともと無解答率の低かった設問

「示された図を基に、赤いテープの長さが白いテープ(80cm)の長さの1.2倍に当たるときの赤いテープの長さを求める式を選ぶ設問。」

「示された分数の中から、 $1/2$ より大きいものを選ぶ設問。」

「 8m^2 に16人いるAの部屋の様子を表している図を選ぶ設問。」

「コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられる平行四辺形の特徴を選ぶ設問。」

「縦5cm、横11cm、高さ4cmの直方体の面⑦になる四角形を選ぶ設問。」

「答えが $100-20\times 4$ の式出求められる問題を選ぶ設問。」等

算数・数学B

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった。

②量と測定

概ね良好な結果であった。

③図形

概ね良好な結果であった。

④数量関係

概ね良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった。

②短答式

概ね良好な結果であった。

③記述式

概ね良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

・もともと正答率の高かった設問

「示されたかけ算の中で積に同じ数字が並ぶものを選ぶ設問。」

・もともと正答率の低かった設問

「示された分け方でスープを分けた時、残りの30人にスープを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く設問。」

・もともと無解答率の高かった設問

「示された情報を精子利、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できるかを問う設問。」

・もともと無解答率の低かった設問

「示された分け方でスープを分けた時、残りの30人にスープを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く設問。」

<分析>

- ・「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」全ての領域で、全国平均正答率より高い。
- ・全国平均正答率を下回った4問は、以下の問題である。「 $2\div 5$ 」「 $1/3+2/5$ 」「 8m^2 に16人いるAの部屋の様子を表している図を選ぶ」「 1cm^3 の立方体を基に、示された直方体の体積を求める」→小数点以下の割り算、通分、単位あたり量の感覚、体積の感覚が苦手である。
- ・無回答率が全国を上回るものが、半分くらいあった。「 $46+57$ 」「 903×6 」なども答えていないところもあるので、テストに無気力になっている児童がいたと思われる。
- ・「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域で、全国平均正答率より高い。
- ・全国平均を下回っているのは、「図形」の領域である。また、設問別で見ても下回っているのは以下の4問である。「示された場面から計算の結果の見通しをもち、(2位数) \times (1位数)の筆算をすることができる。」「10人分の量を基に、条件に合う時間を求めることができる。」「2人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる。」「示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めることができる。」
- ・ほとんどの設問で、無回答率が全国を上回っていることから、低位層の児童の理解に課題があることが分かる。
- ・「示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる。」かどうかを問う問題では、平均正答率こそ全国平均よりも高いがその一方、無回答率も高い(16.2%)なので、二極化が見られる。
- ・以前から課題であった記述式の問題については、自分で説明したり、理由を考えたりする力を、問題解決型の学習を通して、培ってきた成果が見られている。

○●経年比較●○

＜全体的な傾向についての分析＞

年度によってばらつきはあるものの、正答率は平均すると7年前からほぼ変わらない。同じく無回答率についても、年度によってのばらつきはあるが、平均してあまり変化は見られない。

近年、世代交代が進み、教職員の入れ替わりが激しくなる中、研究指定校として授業づくりの研究をしていた頃の良い部分を継承しつつ、授業研究を進めてきた成果が見られている。今後もどの子ども分かる授業づくりを進めて行くことが大切。

＜学力高位層と学力低位層についての分析＞

学力高位層は年を追うごとに増加してきている。また、学力低位層も減少傾向にあるので、どの子ども分かる授業の研究を進めながら、退屈しない授業づくりを今後も追及していくことが必要不可欠である。それと同時に学力中間層を高位層に移していけるように、授業研究をさらに進めていくことが大切である。

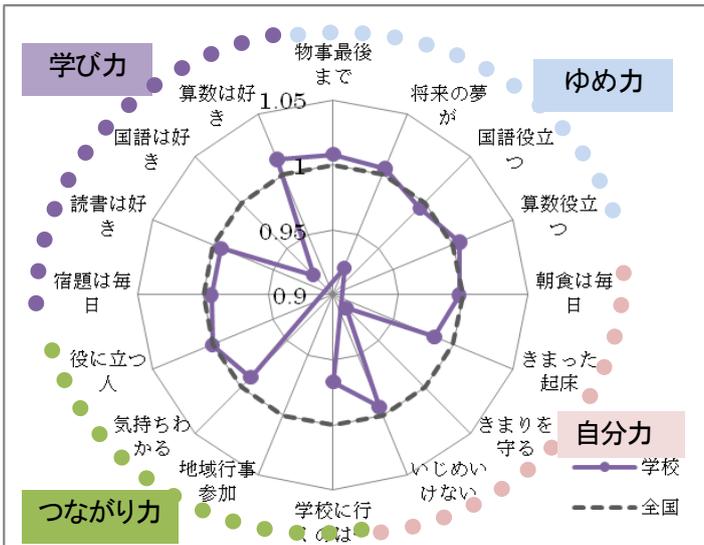
○●取り組み●○

＜学力向上に関する取り組み＞

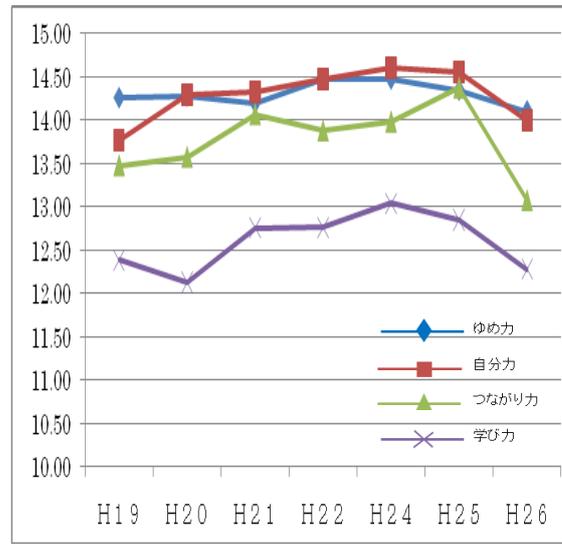
- ・どの子ども分かる、学びあいのある授業づくり（課題、目標、内容の明確さ等）の推進。
- ・学んだ成果が見られる丁寧なノートづくりにつながる指導。
- ・「朝学（朝の自主学習タイム）」や「もくもくタイム（木曜日の朝に、教員の指導のよとの学習タイム）」等を活用し、基礎・基本の徹底、また書く力を高めていくことで、問題に向かっていく姿勢も合わせてつけていきたい。
- ・1～6年までの系統立てた学習活動を推進していく必要がある。また、習熟できずに終わってしまう児童への細やかな対応や取り組みが大切である。
- ・全体的な学力の底上げを図るため、専門支援員や支援教育サポーター等との連携や、個別支援を進め、授業中の人的支援の有効な活用が重要である。
- ・毎日、毎週、年間の取り組みで、基礎・基本の反復練習や家庭学習の確認をさらに続け、家庭との連携も強めていかなければならない。
- ・国語Aの正答率がこの数年の伸びと同程度であり、これまでの授業研究の成果が見られるが、特に国語Bの無回答率がかなり増加しているため、諦めずに問題と向き合う姿勢などを常日頃から声をかけ続け、無回答を減らしていく取り組みが必要である。
- ・「書くこと」の問題や「記述式」の問題では、正答率では全国平均を下回っていることから、書く力の向上を目指した取り組みが今後も必要と言える。
- ・漢字の読みに課題が見られたので、反復練習の時間確保や、漢字学習の方法を今後も考えていく必要がある。
- ・2つの文章を読み比べる授業のあり方を研究していく必要がある。
- ・学力低位層が今回増えたので、底上げをしていかなければならない。
- ・国語Bでの課題が非常に多いので、活用力について系統的に学習を進めていかなければならない。
- ・算数Aの低位層が若干増えているため、今後とも習熟度別学習や少人数分割指導を進め、個別に支援できる体制を継続して取り組んでいくことが必要不可欠である。
- ・問題解決型の学習を今後も大切にしていきたい。それと共に、基礎・基本の内容について、反復練習の時間確保もしていかなければならない。
- ・学力向上に向けては、児童が安心して学習できる居場所が大切である。そのためには、普段の人間関係づくりや集団づくりが必要である（みずおの「み」の「みんな仲良く」）。その為にも一人ひとりを大切にする人権教育を推進していく。
- ・児童が意欲的に学習に取り組める環境づくりを進めていくことも大切である。教室の視覚刺激を少なくしたり、きれいな教室を維持したりしておくこと（みずおの「ず」の「ずっときれいに」）も必要不可欠。
- ・「宿題がんばり週間」等を利用し、家庭と連携して家庭学習の定着に取り組む。

○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果



これまでの推移



<分析>

ゆめ力について

「将来の夢や目標をもっている」割合も高いことから、未来に対し展望を持っていて、日々努力している様子もわかる。しかし、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」数値が低いことや「算数・国語が役立つ」の数値が低いことからわかるように、達成感を感じ、学習を前向きに捉えることができていない。今のがんばりが将来の夢や目標につながっていくものだとわかるような取り組みが必要である。

自分力について

特に「学校の決まりを守っている」は肯定的回答の割合が低くなっている。また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の数値も低いことから月目標のふり返りを丁寧にし、生活の見直しや規範意識を高める取り組みが必要である。

つながり力について

「人の役に立つ人になりたい」と思える児童は多いが、「人の気持ちがわかる人間になりたい」の肯定的回答は低い。また、学校に行くのが楽しいと感じている児童も全国平均よりも下回っている。人権週間の取り組みを今後もすすめ、学校全体で児童を見守り、つながる力を大切にしたい取り組みを継続する必要がある。「地域行事に参加している」の項目は低い、学校行事と地域行事の違い等わかりにくいいため、数値ほどの低さではないと予想できる。

学び力について

「算数の勉強は好きですか」は全国平均より高い。割合としては低い、少数授業や学習態度授業で児童を育てていっている成果と考えられる。読書タイムや読み聞かせの成果も出ていることが分かる。しかし、「国語の勉強は好きですか」は半数という実態である。伝えることはできている実感はあるので、そこが「楽しい」や「わかった」につながる授業を組み立ていきたい。また、何が原因で好きでないのか何が好きなのか見極めていく必要がある。

<取り組み>

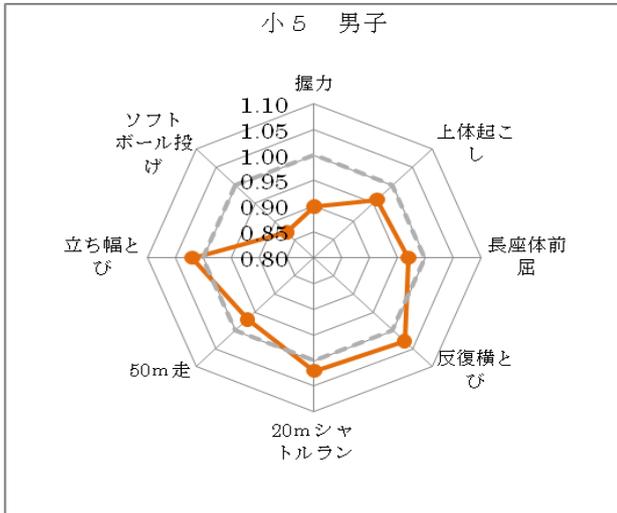
いろいろな人とつながり、自分も他者も尊重できる子どもを育て、規律を守り、互いの個性を高め合う集団づくりをめざすため以下の取り組みを行っていく。

- ・昨年度までに積み上げられた人権教育カリキュラムをもとに、人権学習の視点に立ったとりくみの研究を進める。
- ・平和教育のとりくみ（各学年に応じたもの）を進める。その上で、各学年のとりくみを「平和集会」で交流。
- ・小中連携の充実を図る。
- ・集団づくりや人間関係づくりを含んだ人権教育の視点を大切にしたい授業づくりを進める。
(お互いの良さや違いを認め合える仲間関係づくり、一人ひとりが自信を持てる場づくり、信頼し合える学級づくり等)
- ・生活アンケートを実施（年3回、毎学期）し、集団づくりに活用する。
- ・学期に1回以上、学年で共通のワークや道徳教材を実践する。
- ・規律ある学校づくりを進める。（規範意識を高めるために、きまりの徹底、長期休暇前の生活指導、等）
- ・自分をふりかえるとりくみを設定する。（月目標のふりかえり、課題に応じたとりくみ）
- ・校内研修会の実施。

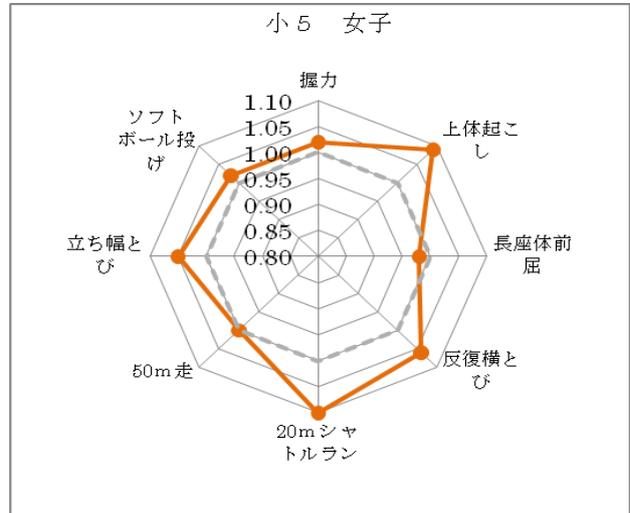
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子 (小5)



女子 (小5)



<分析>

- ・小学5年男子では、反復横跳び・20mシャトルラン・立ち幅跳びが、全国平均よりも高い。その一方、握力・上体起こし・長座体前屈・50m走・ソフトボール投げが、全国平均よりも低い。特にソフトボール投げと握力の課題が大きい。
- ・小学5年女子では、握力・上体起こし・反復横跳び・20mシャトルラン・50m走・立ち幅跳び・ソフトボール投げが、全国平均よりも高い。特に、上体起こしと20mシャトルランが顕著に表れている。本校が年間を通して体育科学習で取り組んでいる「縄跳び」学習の成果が表れているものと見られる。その一方で、長座体前屈のみ全国平均より低い。
- ・男子・女子共に共通する課題は、柔軟性である。

<取り組み>

- ・子どもたちが「楽しい!」「できた!」と感じる体育科の授業づくり、また体育に苦手感を持つ子どもたちが、運動嫌いにならないように、体を動かす楽しさを感じられるような授業づくりを追求していく。
- ・全校一斉に取り組んでいる「年間を通した縄跳び学習」を今後も継続していく。
- ・茨木っ子運動を全校で実施し、継続していくことで体幹を鍛え、姿勢保持にもつなげていく。その上で、課題である握力、瞬発力、柔軟性の改善にも努めていく。
- ・体育の毎時間に、準備運動の中で決まったものを年間通して行う。
- ・体力アップタイムやなわとび朝会、ウインタートレーニングなどの、全校での取り組みも継続して行っていく。
- ・体育の授業の中で、休み時間につながる運動遊びを子どもたちに教えていく。
- ・休み時間に子どもたちが運動場に出て、体を動かすことができるように促していく。
(地域との連携も視野に入れて)
- ・教師の授業力向上の為に、校内自主研修会を実施していく。
- ・体育用具を整備し、より使いやすい環境にしていく。

2

3年間の計画

	(各校)	(各校)	(ブロック共通)
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	主体的に学び、ともに生きる力を高めよう ～体験し、共感し、仲間に伝え合う力の育成～	生命を大切にし、健康な体と体力を作り、安全に気をつける子どもを育成	自己肯定感の向上 ～集団づくりとコミュニケーション力を育てる～
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ○推進計画の作成 ○3研究部会を中心に推進 ○校内研究授業・研修会の実施（研究授業、授業改善、教材・教具の工夫、ICTの活用、等） ○基礎学力の充実 きめ細やかな学習支援体制の確立（習熟度別授業の推進）、希望者による放課後コース別学習教室（2・3年）、朝学習・もくもくタイムの活用、宿題がんばり週間・学び方をふりかえろうの実施、丁寧なノート指導、等 ○読書活動の充実（読書週間の取り組み、読み聞かせ） ○全教職員の共通理解（水尾の知恵袋の活用） ○安心して学べる環境づくり（人間関係、ユニバーサルな学習環境、系統性のある人権学習の推進、等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが「楽しい!」「できた!」と感じる体育科の授業づくりの追求 ・全校一斉に年間を通した縄跳び学習 ・茨木っ子運動を校内に応げる ・年間通して行う準備運動 ・体力アップタイムやなわとび朝会、ウインタートレーニング、などの全校での取り組み ・体育の授業の中で、休み時間につながる運動遊びを子どもたちに教えていく。 ・休み時間に子どもたちが運動場に出て、体を動かすことができるように促していく。 ・教師の授業力向上の為に校内自主研修会の実施 ・体育用具の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同授業研の開催 ・南中ブロックスタンダードの骨組みを作成 ・行事を共有し合う（研究授業、土曜参観、オープンスクール、創立記念日など） ・連携教員が各小へ行き、授業参観をして交流する。 ・連携通信の発行 ・公開授業の実施
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ○初年度の取り組みの検証と、計画の評価と見直し ○3研究部会を中心に推進 ○校内研究授業・研修会の実施（研究授業、授業改善、教材・教具の工夫、ICTの活用、等） ○基礎学力の充実 きめ細やかな学習支援体制の確立（習熟度別授業の推進）、希望者による放課後コース別学習教室（2・3年）、朝学習・もくもくタイムの活用、宿題がんばり週間・学び方をふりかえろうの実施、丁寧なノート指導、等 ○読書活動の充実（読書週間の取り組み、読み聞かせ） ○全教職員の共通理解（水尾の知恵袋の活用） ○安心して学べる環境づくり（人間関係、ユニバーサルな学習環境、系統性のある人権学習の推進、等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが「楽しい!」「できた!」と感じる体育科の授業づくりの追求 ・全校一斉に年間を通した縄跳び学習 ・茨木っ子運動を校内に応げる ・年間通して行う準備運動 ・体力アップタイムやなわとび朝会、ウインタートレーニング、などの全校での取り組み ・体育の授業の中で、休み時間につながる運動遊びを子どもたちに教えていく。 ・休み時間に子どもたちが運動場に出て、体を動かすことができるように地域と連携する。 ・教師の授業力向上の為に校内自主研修会の実施 ・体育用具の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区の小中学校が一同に介して、1小1中が公開授業研究を行う。 ・南中ブロックスタンダードを全体に広め、練り上げて完成させる。また、できることから実施する。 ・互いの行事を共有し合う（研究授業、土曜参観、オープンスクール、創立記念日など） ・いきいきスクールの実施 ・連携通信の発行 ・公開授業の実施
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ○2年間の取り組みの検証と、計画の評価と見直し ○3研究部会を中心に推進 ○校内研究授業・研修会の実施（研究授業、授業改善、教材・教具の工夫、ICTの活用、等） ○基礎学力の充実 きめ細やかな学習支援体制の確立（習熟度別授業の推進）、希望者による放課後コース別学習教室（2・3年）、朝学習・もくもくタイムの活用、宿題がんばり週間・学び方をふりかえろうの実施、丁寧なノート指導、等 ○読書活動の充実（読書週間の取り組み、読み聞かせ） ○全教職員の共通理解（水尾の知恵袋の活用） ○安心して学べる環境づくり（人間関係、ユニバーサルな学習環境、系統性のある人権学習の推進、等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが「楽しい!」「できた!」と感じる体育科の授業づくりの追求 ・全校一斉に年間を通した縄跳び学習 ・茨木っ子運動を校内に応げる ・年間通して行う準備運動 ・体力アップタイムやなわとび朝会、ウインタートレーニング、などの全校での取り組み ・体育の授業の中で、休み時間につながる運動遊びを子どもたちに教えていく。 ・休み時間に子どもたちが運動場に出て、体を動かすことができるように促していく。 ・教師の授業力向上の為に校内自主研修会の実施 ・体育用具の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区ブロック全校が一同に介して公開授業研究を行う。 ・南中ブロックスタンダードの実践を通して検証を行う。 ・いきいきスクールの実施 ・互いの行事を共有し合う（研究授業、土曜参観、オープンスクール、創立記念日など） ・連携通信の発行 ・公開授業の実施